

[第124回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和 4年 3 月

NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 4年 4月 9日(土) 15時～17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.64～ (用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

3 月 5 日(土)午後、安曇川公民館で第 123 回人間学塾を開きました。今回の参加者は 10 人でした。

最初にロシアのウクライナ侵攻によって、ウクライナはもちろん、ヨーロッパ、世界が危機に陥っている。早期に戦争が終結して、ウクライナの人々や傷つく人が少なくなるよう祈りましょうと述べました。

さて、前回からテキストは藤樹先生の著作『鑑草』です。儒学、陽明学と共に仏教思想も入っている興味深いものです。皆で原文と現代語訳を読みました。

今回は第一巻「孝行と不孝の報い」の序と第 1 話「姑の死を望んだ不孝な嫁」です。

大意は「人間は生まれつき明德仏性(真心)を持っているので、本来は嫁と姑も仲良くするはずだ。しかし自他の区別をするようになると、関係が悪化する。だから嫁が常に明德を明らかにして孝行する真心があれば、姑も必ず心の曇りが晴れて本来の慈愛の心がわき起こり家庭融和、子孫繁栄するものである。これに関連する事例のお話」です。内容は直ぐ理解できます。

江戸封建時代の男尊女卑、家中心の考え方と現代の男女平等、個人中心の考え方とは時代背景は大きく異なりますが、対人関係において、嫁と姑に限らず自己中心の考えでは上手く行かないことは共通しています。そこで、村上和雄・棚次正和『人は何のために「祈る」のか』の抜粋、金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」の詩そしてサミュエル・ウルマンの詩を使って、「祈る」ことの効用が大きいこと、前向きに生きることが人生を豊かにすることなどの話をしました。

その後、フリートーキングを行いました。参加者から「原文を読むことができてたいへん満足」、「学問には知識を高める学問と人間力を高める学問の 2 つの分野があるが、現代は知識教育偏重になっている。本塾のような人間学教育が必要だ」、「人は知識教育については人類が今までに蓄積した知識を学ぶことができるが、人間学は蓄積ができないので、各人が一から学んでいく必要がある」、「『鑑草』は性善説に立っている」、「私は楽な道と苦しい道があれば、苦しい道を選ぶようにしているので、サミュエル・ウルマンの詩に共感した」等の意見、感想をいただきました。

学ぶは^{たの}しみ！次回は 4 月 9 日(土)15 時から安曇川公民館で行います。『鑑草』第 1 巻の第 2 話、第 3 話です。無料です！